

安来高新聞



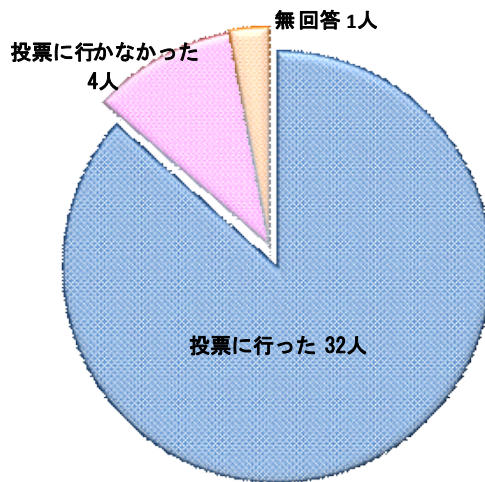
発行所：安来高校新聞部
〒692-0031
島根県安来市佐久保町115
TEL：(0854) 22-2840
FAX：(0854) 22-3612

安高生の主権者意識の高さはどこから

投票する人を選んだ決め手

インターネットを見た	5人
冊子(公約集)を見た	3人
演説会に出かけた	2人
公開討論会に出かけた	0人
選挙公報・新聞を見た	12人
街頭演説を聴いた	0人
家族と話した	16人
友達と話した	3人
その他	3人

7月10日の参院選で投票に行きましたか？



7月11日までに満18歳を迎えた生徒36人のうち実際に投票所へ行き選

挙に参加したのは86.47%だった。これは山陰中央新報が県内の5つの高校の三年生を対象に同様に行ったアンケート回収率94.61%

ケートの結果(7月26日付)79.8%を上回った。

投票する人を選ぶ決め手としては、家族との話し合いや、選挙公報、新聞からという回答が多数であった。

どちらも身近で信頼できる人の生の声を聴いたり、信憑性の高いものにふれたりしたこと、選挙をより身近なものとしてとらえ、選挙への関心を高めていたと考えられる。

選挙への関心

一方で選挙権を持ちながら投票に行かなかった人からは、「関心がなかった」という声が聞かれたが、より多くの人の考えが反映された政治が行われるためには、まずは日本の現状を知り、関心を持つことが重要である。

また、今回の選挙では選挙権を持たなかった人も、82.76%は選挙年齢に達した

私達の声で未来を創る

7月10日に参議院選挙が行われた。6月19日に公職選挙法等の一部を改正する法律が施行され、満18歳以上満20歳未満の人も選挙に参加できるようになって以後、島根県では初めての選挙となった。今回私たちは本校の3年生を対象に選挙についてのアンケートを行った。(アンケート回収率94.61%)

18歳からの選挙

ら投票したいと答えた。

今回の選挙権の年齢引き下げについては71.54%の人が賛成、27.64%の人は反対という結果になった(無回答0.82%)。その理由としては18歳で投票することへの責任が大きすぎるとの声があった。

今回の参院選までに18歳になり、投票を行った少林真頭さん(3年)は「家族が投票することから自身も投票を決意した。実際に会場へ行き、投票所の独特の雰囲気を感じて少し緊張した。だれに投票するのか慎重に考えることの重要性を感じた」と振り返った。また、主権者教育の担当である地歴公民科の岡屋先生は「安高生の投票率から、選挙への関心の高さを

私達の声を政治に

感じた。18歳からの投票は、時間の少ない中でじっくり選挙について考えなければならぬが、早くから政治への意識を高める事が出来るのはいいことだと思う」と熱い思いを語った。

今回アンケートを実施し、安高生の選挙への関心の高さを強く感じると共に、選挙権年齢の18歳への引き下げは、早いうちから政治や選挙について関心を持ついい機会になる。確かに、高校生のうちから投票を行うのはとても責任が大きいが、若者の政治離れが叫ばれる今日の日本において、まず選挙について知り関心を高め、一人ひとりが有権者としての自覚と責任を持てば、より多くの国民の意見を政治に反映させていくことができるだろう。(柚)

Shine a light
2016
安来高校 蒼輝祭
9.2(金) 各学年企画 8:50-14:00
1年 読本読・男踊り
2年 Y-1 グランプリ
3年 分団PR
9.3(土) 体育祭 8:50-15:10
安来高校グラウンド

各種大会報告

1人1人が輝いた夏

フェンシング部

インターハイ 団体・個人 Best16 大健闘!!

7月29日～8月2日 岩国市総合体育館



全国の舞台上で微笑むフェンシング部員

- ・女子団体 ベスト16
- ・男子個人サーブル
- 藤原成亜さん(2年) ベスト16
- ・女子個人サーブル
- 井塚千晶さん(2年) ベスト16

キャプテンの神林澄夏さん(3年)は「キャプテンとしてみんなを引っ張らないといけないと力んでしまい最初は負けた。だが、後輩が思ったよりも緊張しないように見えキャプテンとしてのプレッシャーが消えた。全国で戦ってみて

技術はもろろんだがメンタルも強くするようにしないといけないと感じた。だから後輩にはメンタルを強くする意味でも団体での団結力を磨いていくこと、部内で話し合っている決めていることを望みます」神林さんは、同性の同級生がいない中、三年間部活動を続けた。「辛いこともあったが全国16強に入れたよかった」と3年間を笑顔で振り返った。(業)

バレーボール部



喜びを分かち合う選手達

男子バレー部

男子バレーボール部は去年に引き続きの全国出場を果たした。キャプテンの井山創太さん(3年)は「絶対に勝つという思いで挑んだが、やはり全国は難しかった。後輩をもっと引っ張れば良かった」と話した。

女子バレーボール部は、去年は全国出場を逃し

写真部

全国高等学校総合文化祭 全国の人々と交流

7月30日～8月3日 広島国際会議場



撮影前に地域の子供とふれあう小村さん

全国高等学校総合文化祭写真部門に小村奈々さん(3年)が出場した。そこで全国から集った高校生達と広島町の町を回り、写真を撮りながら、様々な交流をした。小村さんは「写真の撮り方など勉強になることがたくさんあった。コミュニケーションをとることはとても大切だということも学んだ」と話した。(愛)

インターハイ

男女ともに全国の舞台へ

7月29日～8月6日

山口リフレッシュパーク他

男女ともに初戦、敗者復活戦どちらも惜敗し、決勝トーナメントに出場することは出来なかった。

女子バレー部

だが、今年はインターハイへの復活を果たした。キャプテンの竹崎恭子さん(3年)は「全国レベルの相手はやはりとても強かった。1・2年生にとっては初めての全国大会となり、その雰囲気を知ることが出来て良かったと思う。今回の経験を今後に生かしてもっと練習をしたい。目標に向かってこれからも頑張りたい」と話した。(愛)

全国高等学校総合文化祭

新聞部

多くの技術を持ち帰る

8月1～3日 広島女学院大学校



他校の部員と話す舟木愛さん(2年)

全国総文祭に新聞部員2名が出場した。この大会では単に新聞を作るのではない。もちろん、文章を決められた時間内に書く力も必要だが、初対面の人と話すコミュニケーション力やインタビューする際に記事にすべき内容を聞き逃してはいないか、またどのような質問をするかを考える力が必要とされる。今回は特にコミュニケーション力を磨くことができた。県外の部員達とレイアウトや記事の内容、テーマなどを話し合えた。インタビューの際には、互いの書く記事を把握し情報を共有したりなど相手のフォローを上手に出来たため、チームワークも発揮できた。また、意見交換の際には新聞の作り方やインタビューの方法、発行数や発行枚数など各高校によって違うことを改めて知った。なかなか、他校の新聞部員との集まりはないので貴重な体験が出来たと思う。(業)

弦楽部

全国高等学校総合文化祭
全国の舞台で堂々と演奏
8月1〜2日呉市文化ホール



優雅に演奏をする生徒達

総文祭に弦楽部は「しまねシンフォオネット高校オーケストラ」として参加した。総文祭では3曲を演奏し、大江珠未さん(2年)は「ホールが大きかったので、弾いていて楽

しかった。これからは、3年生が引退したため人数が少なくなってしまうので、1人ひとりが音を出していきたい」と話した。顧問の小松麻里先生は他の学校との合同オーケストラだったので、全体で合わせる事があまりできず心配だったが、全国に出しても恥ずかしくないレベルだったのでホッとしたりと語った。(友)

吹奏楽部
感動の演奏
中国大会出場校と同点!

全日本吹奏楽コンクール鳥根県大会
8月4日 益田市グラントワ

高等学校小編成の部
金賞

江田奈穂子さん(3年)は「今年去年と違うことを二つした。一つ目は個人の目標を明確にした上で、合奏を多くした。そのため自然と部員たちが自主練習するよ

うになりどんどん上達していった。二つ目は本番前に本番と同じ様な環境で演奏をした。だから本番は思ったよりも緊張しなかった。これから後輩は少人数で大変かもしれないけどお互いにカバーし合っ

てほしい」と後輩にエールを送った。(業)

囲碁

鋭い一手
全国高校囲碁選手権 7月26日 東京
全国高等学校総合文化祭
8月1〜2日 呉市文化ホール



試合に取り組む漆原友紀さん

選手権に出場した大江珠未さん(2年)は2勝1敗で予選リーグ敗退、全国総文祭出場の漆原友紀さん(2年)は3勝3敗という結果になった。前年度も出場した大江さんは「緊張もあつたが前年度より落ち着いて取り組めた。来年は決勝トーナメントに進めるよう頑張りたい」と真剣なまなざしで語った。(柚)

安高生デザイン

ビタミン炭酸MATCH 誕生!!

美術部



大塚食品が募集した、炭酸飲料「MATCH」の青春ポトルデザイン画に美術部3年、引野菜月さん(3年)の作品が採用された。高校生カッブルの軽くな



ポトルを手に微笑む引野菜月さん

いだ手が描かれており、引野菜さんは「キュンとする青春のイメージ」

でこのラベルを描いたと言う。引野菜さんの「MATCH」はすでに店頭並んでいる。

安来インターハイを支えた安来の高校生達
各所で見せたもてなしの心



サンプリングを受け取る選手

8月2〜6日に安来運動公園でインターハイのテニスが行われた。会場や安来駅では安来高校、情報科学高校の生徒が県内外から訪れた選手やその家族らをもてなした。会場では受付やゴミ拾いをはじめ、様々な仕事

野球部

全国高等学校野球選手権 鳥根県大会

後輩に思い託して

7月16日 浜山球場
安来 4-8 浜田商業



三塁打を放った万波武士選手

浜田商業と対戦した初戦の突破はかなわなかった。キャプテンの庄司光一さん(3年)は「油断していたわけではないが、勝てると思っていた。秋の大会まであと少し、初戦を大切に、それに向けて頑張りたい」と前向きな思いを語った。(柚)

うにしている」と話した。やっていられなかったことを尋ねると、どの係の人も同様に「挨拶を返してもらったり、声をかけてもらった時」と答えた。青森県から来られていた選手の母に聞くと、「どの方も明るく接してくれる。審判をしている子

がとてもはきはきしていい」と話した。今回のテニスのインターハイのために3年前から各地の視察など様々な準備が重ねられた。安道高校の陶山裕史先生は「テニスにあまり関係のない高校生や先生方などが協力してくださりとても感謝している。他の県ではテニスの関係者だけで大会を運営していったりしているの、このことを県外の人に話すのが驚かれる」と嬉しそうに語った。(友)

女子バレー部支える下宿の母

さりげないサポートの力

厳しい練習の後の憩いの夕食



大活躍中の安高女子バレー部。実は部員のうち16人が一つの下宿で生活している。その下宿を切り盛りしている女性に話を聞いた。

下宿10年目

16人の女子バレー部員を支える藤原瑞穂さんは、「生徒を受け入れて今年で10年目になります。下宿生を受け入れて良かったことは、自分自身バレーボールが好きなのでバレーボールを身近に感じることができるとです。また、精神的に強くなるコツを子供に教えられることも嬉しいですね」と語る。精神的に強くなるコツを尋ねると「いっぱい食べる」と

「下宿生の母親代わりとして、朝のあいさつや夕方帰ってきたときに声のトーンや表情で体調の変化に気づく

さりげない目配り

「下宿生の母親代わりとして、朝のあいさつや夕方帰ってきたときに声のトーンや表情で体調の変化に気づく

こと、スリッパや靴はそろえる、ゴミ拾いをするなどの日常でできることを伝えることを心掛けています」と言う。

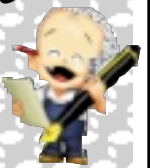
安来高校では今後、県外生の受け入れが増加することも予想され、そうなる下宿の需要も高まる。これから下宿生を受け入れようかと考えている方へのアドバ

イスはないかと聞いたところ「コミュニケーションをとることが大事。子供は、練習を休みたくな、レギュラーを取られたくないなどの理由でけがをしていても「痛い」とかを言わないので、生徒の様子に気付けるようにしたい。母親代わりだけでなく個人に踏み込みすぎない、いい距離感で接することが大切なことだ」と語った。

(葉)

第1回安高オープンスクール

希望あふれる中学生を迎えて



7月28日に安来高校でオープンスクールが行われ、市内外から約二百名もの中学生が訪れた。この日のプログラムとして校内見学、体験学習、在校生インタビュー、部活動見学が行われた。体験学習では、11の講座に分かれ中学生は真剣な表情で授業を受けていた。

物の授業を受けた広瀬中の門脇成生さんは「楽しかった。安高は明るく楽しそうな学校」と答えてくれた。物理の授業をした坂根先生は「今年の中学生も真剣な表情で授業を受けてくれた。その希望あふれる様子にとっても若さを感じた」と語っていた。市内にとどまらず市外からも本校のオープンスクールに来るといことは安高に何か大きな魅力を感じたのではないだろうか。

(葉)



家庭基礎の授業

編集後記

今年の夏も本校の様々な部活動が全国大会・中国大会へ出場した。上位大会に出場し強い相手と戦うことのできた物が沢山あっただろう。そこで得たものを学年関係なく今後の生活に生かして言きたい。

(葉)